

テント一週一文（く）—— 「はとぼっぽ通信」 219号より

榎田^{たかし} 劭 「原発の電気は買いたくない」

（承前々回）

私が12月4日の梅田裁判傍聴記を読み終わって甘酒さんに返そうとすると、甘酒さんは山下さんと話しこんでいます。

甘酒さん（以下：甘）「この傍聴記によると梅田さんは上告するのね」

山下さん（以下：山）「手続きはしたらしいわよ。「上告しま〜す」「はい、待っていましたよ。受け付けました！」っていう訳にはいかないらしいわ」

甘「何やかやの手続きが必要なのね」

山「って、弁護士さんが言っていたわ」

私もこの判決の問題点は少し聞いていたので、つい口をはさみたくなりました。

「地裁でも梅田さんの作業の実態をはっきりさせないまま判決が出て、高裁でも裁判の傍聴に来ていた労基署職員の証人尋問もせずに判決を出したそうですね。私の仕事の営業で言えば、そんなレベルの仕事をしていたら、明らかになった時点で出入り禁止の紙を胸に貼られますよ」

山「えっ？ 胸に紙を貼る会社があるの？」

私「いえいえ、言葉の綾ですよ」

山「忙しい時に冗談を言わないでよ」

私「ぜんぜん忙しそうにしていないじゃないですか」

山「言ってみたいのよ、人並みに。」

甘「で、最高裁に行ってどうなるのかしら？」

山「国は自分たちが勝つって思っているかもしれないけれど、梅田さんの弁護団はこの点を考慮すれば負けはしないと思っているポイントをアピールすると思うわ」

甘「でもね、裁判官の多くは国に恥をかかせたくないって思っているのでは？」

山「裁判官も「官」ですからね」

私「えっ、それってどういう意味ですか？」

山「官吏っていう単語を知っている？ お役人、特に国のお役人のことよ。裁判官も「官」だから国の方針にはね……」

私「それって戦前、70年前の話じゃないですか」

山「昔は逆らえなかった、今は逆らわないってことよ」

私「そういえば、そんな記事を週刊誌で読んだことがあります。そんな現実の中で山下さんはよくランソしますね」

山「「今は逆らわない」って言ったけど、裁判官だって十人十色なのよ。戦争か平和か？ 正義か不正か？ 公平か格差拡大か？ 安全か有害か？ 強きをくじき弱きを助ける方策か、弱気を痛めつける政策か？ 裁判官だって悩んでいる人はいるはずよ。社会の不正、不公平、社会格差等々、是正しなければならぬことはたくさんあるわ。原告・弁護団がそれらを理路整然と訴えるのを忘れないでいれば、私たちの主張を“是”とする裁判官も現れるはずよ。21世紀ですもの」

私「山下さんは、裁判の話になると熱が入ってきますね」

山「そんなところがあるわね。それで梅田さんの裁判のことを聞いて話が長くなってしまったわ。ところで……」と、山下さんは甘酒さんに声をかけます。

山「「はとぼっぽ通信」って知っている？」

甘「先回か先々回の「一週一文」で取り上げていたでしょう。たしか、宮崎宗真さんたちの記事を」

山「そうだったわ。それでね、あなたにはこれを読んでもらいたいのよ」

甘「あっ、一面に小泉元首相の講演会のことが載っている。この前のもの？」

山「同じ219号(2017年10月刊)なのだけど、この号に「原発の電気は買いたくない」って記事が載っているの」

甘「えっ、このテントの横断幕にも同じモットーが書いてなかった？ ほらそこ」と、甘酒さんは、テントの九電本店正面側に下げられている黄色の横断幕を指します。

私「ここのは「原発の電気は買わない 使わない」ですね」

山「この記事を書いた榎田^{たかし} 劭さんをご存じ？」

私「僕は知りません」

山「京都市在住の方で、有機農業や環境問題に詳しくて、「使い捨て時代を考える会」で長く活動されているわ」

甘「脱原発についても発言したり、行動したりしているのね」

山「そうなの。この記事では、電力自由化消費者の責任という副題をつけて、消費者の行動について述べているわ」

甘「どういうこと？」

山「この記事を読んでみて。最後の方ね」

私「この記事のテーマは電力の自由化なのですか？」

山「それを前提とした話ね。2016年4月から小口消費者用の電力が自由化されたの。それに関連し、電力消費者はどうあるべきかについて書かれているわ」

私「えっ、じゃ電力の大口消費者は未だ自由化されてはいないのですか？」

山「そんなことはないわよ。工場などの大量に電力を消費する事業所は、もう10年以上前かしら自由化しているわよ。2016年からは家庭でも始まったのよ。あなたたち、新電力に変えた？」

私「いえ、まだです。料金はそれほど変わらないって聞いているし……」

山「榎田さんはそんな電力消費者の責任について論じているのよ。記事の末尾に新電力への変更の仕方も掲載されているから、参考にして、簡単らしいわよ。明日にでも変更しなさいよ」

甘「私もまだなのだけど……」

山「えっ、あなたも変更していなかったの？ 明日にでもしてね」と、テント中に山下さんの叫び声が響きわたるなか、時間が過ぎていきます。

(以下 次号)

(文責 栗山次郎) 2018年1月15日公開

参照：榎田^{たかし} 劭『原発の電気は買いたくない』

http://npg.boj.jp/kieyuku/week_repo/180115tsuchida.pdf

：原発設置反対小浜市民の会の「はとぼっぽ通信」219号(2017年10月刊)